

修士論文(要旨)

2016年1月

大学生における自閉症スペクトラム傾向と創造性との関係に
関する研究

指導 石川 利江 教授

心理学研究科
健康心理学専攻

214J4057

劉 澤龍

Master's Thesis(Abstract)

January 2016

A Study of the Relationship between Autism Spectrum
Tendencies and Creativity in University Students

Zelong Liu

214J4057

Master's Program in Health Psychology

Graduate School of Psychology

J.F.Oberlin University

Thesis Supervisor: Rie Ishikawa

目 次

第一章 序論	1
1.1 研究の背景	1
1.2 論文の構成	2
第二章 先行研究概観	4
2.1 自閉症スペクトラム傾向と創造性の検討	4
2.1.1 自閉症スペクトラムの起源と歴史	4
2.1.2 自閉症スペクトラムの特徴	5
2.1.3 自閉症スペクトラムと創造性の関連の研究	6
2.1.4 アスペルガー障害と天才	7
2.2 思考スタイル	10
2.3 日本と中国の比較	14
2.4 研究の目的	15
第三章 調査研究	16
3.1 自閉症スペクトラム傾向との創造性の検討	16
3.1.1 調査 1 中国人大学生を対象とした調査研究	16
目的	
方法	
結果	
考察	
3.1.2 調査 2 日本人学生を対象とした調査研究	25
目的	
方法	
結果	
考察	
3.2 調査 1 と調査 2 の高自閉症スペクトラム傾向の大学生の思考スタイルの日中比較	34
目的	
方法	
結果	
考察	
第四章 総合考察	40
引用文献	42
付録	

論文の構成

本論文は3つの部分で構成されている。第1部では、大学生における自閉症スペクトラム傾向と創造性との関係に関する一研究の背景を述べ(第1章)、序論で述べたような背景を受け、これまで自閉症スペクトラムの起源と歴史、定義と特徴と創造性の文献レビューの研究を行った後、自閉症スペクトラムと創造性との関連性について検討し、調査の目的へとつなげる(第2章)。第2部においては、中国の大学生における自閉症傾向と創造的能力に関する調査1、日本の大学生における自閉症傾向と創造的態度に関する調査2、日中大学生の高自閉症スペクトラム傾向の思考スタイルの比較について調査3を行った(第3章)。第3部では、これらの調査により分かったことや残された問題点、今後の展開などについて触れていくことにする(第4章)。

目的

自閉症スペクトラムと創造性との関連は近年から論じられており、Gillberg (2002)は、「忍耐、完璧さへの欲動、すぐれた具体的知性、社会習慣を無視する能力、そして他人の意見や批判を気にしすぎないことは、有利な点と考えるし、おそらくある種の新しい考えや創造性に必要条件であるかもしれない」と述べている。しかし、中国や日本ではこのような視点からの研究は少ない。そこで、本研究では、自閉症スペクトラムの特徴を多く有するほど、創造性が多いのではないかと予測し、自閉症スペクトラムと創造性の関連性を検討する。中国と日本の健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム傾向と創造性との関係について検討することを第一の目的とした。

さらに、Grandin (Grandin, 2013 中尾監訳 2014)は、自閉症スペクトラムの特性理解の新たな方法・視点が必要である事を指摘している。その特性の確認のために、個人の特徴を表す概念の1つとして、Sternberg (1997)によって提唱された「思考スタイル」がある。自閉症スペクトラムの特性として知られる5領域と思考スタイルはどのように関わっているかを分析することを第二の目的とした。

第三の目的として、創造性の評価で用いた尺度は日中で異なるため比較から除外と日中で同じ尺度を用いた自閉症スペクトラム指数と思考スタイルを検討する。

結果と考察

本研究では、自閉症スペクトラムの特徴を多く有するほど、創造性が多いのではないかと予測し、中国と日本の健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム傾向と創造性との関係について検討した。さらに、自閉症スペクトラムの特性として知られる5領域と思考スタイルはどのように関わっているかを分析することを行った。最後、創造性の評価で用いた尺度は日中で異なるため比較から除外し日中で同じ尺度を用いた自閉症スペクトラム指数と思考スタイルを検討した。

第三章の調査1で、中国人大学生における自閉症スペクトラム傾向が高いと、創造性能力が低いこと

が明らかになった。先行研究の予測された結果と一致しなかったが、自閉症スペクトラム傾向と同じように、創造性もスペクトラムが存在する可能性が推測された。本研究の対象者は健常大学生であったために、明らかに自閉症スペクトラムの創造性を評価できるかどうかと考えている。したがって、本研究は、定型発達者を対象とした自閉症スペクトラム傾向と創造性の関連において適用できない可能性があると考えている。そして、自閉症スペクトラムの下位因子を基準変数とした重回帰分析について行った。その結果より、中国人の大学生の思考スタイルの中で順守型および革新の人であるほど自閉症スペクトラム傾向が高いことが明らかになった。今回の調査の対象者は理系に所属する大学生であり、男性が多かったことが、先行研究の予測された結果と一致しなかった一要因であると考えている。今後、調査サンプルの多数の専攻、性別差の注意が必要だと考えている。

第三章の調査2で、日本人大学における自閉症スペクトラム傾向の注意の切り替えは創造的態度(細心さ)との関連が明らかになった。自閉症スペクトラム傾向の細部への注意は創造的態度の自己信頼感と細心さと関連が明らかになった。つまり、自閉症スペクトラム傾向の種類によって、創造性態度が関連するものとそうでないものが存在すると考えられる。今後の研究で、重要な要因として検討の必要がある。

そして、日本人の大学生の思考スタイルの中で微視型および保守型の人であるほど自閉症スペクトラム傾向が高かったことが明らかになった。調査1と同じで、調査のサンプルの多数の専攻、性別差の注意が必要だと考えている。

第三章の調査3で、日本と中国の13種の思考スタイルの中で、評価型、単独型、微視型、革新型において文化差が明らかになった。現在、日本において中国人留学生の数が増えてきている。それゆえ、日中の大学生では、相互に理解することが役割が出るかもしれない。日中大学生の高自閉症スペクトラム傾向の思考スタイルの比較について、序列型と保守型では、高自閉症スペクトラム傾向の日本人の大学生は高自閉症スペクトラム傾向の中国の大学生より高く評価している。一方、革新型は高自閉症スペクトラム傾向の中国の大学生は高自閉症スペクトラム傾向の日本人の大学生より高く評価している。これらにより、Mandell, D. S., Wiggins, L. D., Carpenter, L. A., Daniels, J., DiGuseppi, C., Durkin, M. S., & Shattuck, P. T. (2009)では、ASDの認識において人種差があることを報告していることにつながる可能性に示唆されている。

最後に今後の課題について述べる。1つは、診断を有する自閉症スペクトラム者と創造性の関連を検討する必要がある。2つは、自己記入式の創造性尺度で、自閉症スペクトラム傾向を持つ者の創造性を確認できないという問題があるために、今後の研究で、他の創造性テストを用いた質的な観点も含めたデータを収集するべきだと考える。

引用文献

天児 慧 (2003). 中国とどう付き合うか 日本放送出版協会

青柳肇(1980) :創造的構えテスト作成の試み大和学園女子短期大学紀要, 5, 1-7.

Asperger, H (1944). Die “Autistischen Psychopathen” im Kindesalter. Arch. Psychiatr. Nervenkr., 117:76-136. 高木隆郎(訳):小児期の自閉的精神病質。高木隆郎,ラターM、ショプラーE(編):自閉症と発達障害研究の進歩、4:30-68, 星和書店、2000.

Baron-Conhen, S.,Weelwright, S.,Stone, V., et al (1999). A mathematician, a physicist and a computer scientist with Asperger’s syndrome: Performance on folk psychology and folk physics tests. Neurocase, 5:475-483.

Baron-Conhen, S.,Weelwright, S.,Stone, V.,Martin, J., et al., (2001). “The Autism-Spectrum Quotient (AQ): Evidence from Asperger syndrome/ high-functioning autism, males and females, scientists and mathematicians”. Journal of Autism and Developmental Disorders 31: 5-17.

別府 哲(2014). 自閉症スペクトラムの機能関連,発達連関による理解と支援—障害問題研究、42:2 11-19.

Cumine, V., Leach, J., Stevenson, G. (2005). Asperger syndrome A Practical guide for teachers. David Fulton London, 1998. 齋藤万比古(監訳);教師のためのアスペルガー症候群ガイドブック. 中央法規出版.

Frith U, Hill E. (2004) .Autism: Mind and brain. New York: Oxford University Press.

Frith, U (1989). Autism Explaining the enigma. Basil Blackwell, Oxford, , 富田真紀, 清水康夫(訳):自閉症の謎を解き明かす. 東京書籍, 1991.

Fyffe,C.,Prior,M. (1978). Evidence for language recording in autistic, retarded and normal children: A re-examination. Br. J. Psychol.,69:393-402.

Fitzgerald, M. (2005). This translation of The Genesis of Artistic Creativity. 天才の秘密 アスペルガー症候群と芸術的独創性. 倉光弘己, 栗山昭子, 林知代, 井上敏明監訳, 世界思想社, 2009.

Fitzgerald, M. (2004). *Autism and creativity: Is there a link between autism in the men and exceptional ability?* Bruner-Routledge. 石坂好樹、花島綾子、太田多紀(訳);アスペルガー症候群の天才たち—自閉症と創造性。星和書店、2008.

藤野 博(2004). 自閉症スペクトラム障害児の心理アセスメントにおける“心の理論”課題の意義 東京学芸大学紀要.第1部門、教育科学、55. 293–300.

Gillberg, C (2002). *A Guide to Asper's Syndrome*, Cambridge: Cambridge University Press, p. 134.

Grandin, T (1995). *Thinking in pictures*. Doubleday, New York. カニングハム久子(訳): 自閉症の才能開発—自閉症と天才をつなぐ環。学習研究社, 1997.

Grandin, T、Barron, S (2005). 自閉症スペクトラム障害のある人が才能を生かすための人間関係10ルール。門脇陽子(訳)、明石書店 2009.

Grandin, T (2013). *The Autistic Brain: Thinking Across the Spectrum*, Mariner Books. 自閉症の脳を読み解く。中尾ゆかり(訳)、NHK 出版, 2014。

Grossman, H (1977). *Manual on Terminology and Classification in Mental Retardation*, Washington, DC: American Association on Mental Deficiency, p. 143.

Grandin T (1986). *Emergence: Labeled Autistic*. Novato, CA: Arena Press. 我、自閉症に生まれて、カニングハム久子(訳)、学習研究社, 1994.

Havighurst, R.J. (1972). *Developmental takes and education*, 3rd ed. David McKay, New York. 児玉憲典、飯塚裕子(訳):ハヴィガーストの発達課題と教育—生涯発達と人間形成。川島書店, 1997.

Happe, F. G (2000). Parts and wholes, meaning and minds; Central coherence and its relation to theory of mind. In Baron- Cohen, S., Tager-Flusberg, H., Cohen, D.(eds); *Understanding other minds*. pp.203-221, Oxford University Press, Oxford, 2000.

Happe, F. (1999). Autism: cognitive deficit or cognitive style? *Trends in Cognitive Sciences* 3: 216-222.

Happe', F., & Vital, P. (2009). What aspects of autism predispose to talent? *Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences*, 364, 1369–1375.

Happe, F.P.E (1994). Wechsler IQ profile and theory of mind in autism: A research note.

Journal of Child Psychology and Psychiatry, 35. 1461-1471.

Hermelin, B., O'Connor, N. (1967). Remembering words by psychotic and subnormal children. *Br. J. Psychol.*, 58:213-218.

Hall, E. T. (1976). *Beyond Culture*. New York: Doubleday & Company, Inc. (岩田慶治・谷 泰(訳) (1979). 文化を超えて TBS ブリタニカ)

平井 信義, (1970). 情緒障害とは何か(情緒障害児 特集). *教育と医学*, 18(4), 4-10.

Jacob S, Brune CW, Carter CS, (2007). Leventhal BL, Lord C, Cook EH. Association of the oxytocin receptor gene (oxtr) in caucasian children and adolescents with autism. *Neurosci. Lett.* 417, 6-9,

Kanner, L. (1943). Autistic disturbances of affective contact. *Nerv. Child*, 2:217-250.

黒田 吉孝 (2013). 自閉症スペクトラムの特性理解の新たな視点—当事者の著作の検討を通して—, 滋賀大学教育学部紀要 教育科学, No.63, pp87-95.

久保 紘章 (2001). 自閉症に関する考え方の歴史. *現代福祉研究* 1, 73-85

小林 隆児(2004). 広汎性発達障害と創造性—原初的知覚様態と原初的コミュニケーション—*精神科治療学*, 19:1189-1195.

小山 正, 神土 陽子 (2004). 自閉症スペクトラムの子どもの言語・象徴機能の発達, ナカニシヤ出版 .

広沢 正孝(2010). 成人の高機能広汎性発達障害とアスペルガー症候群—社会に生きる彼らに精神行動特性. 医学書院.

Klin, Ami, Volkmar, Fred R. Sparrow, Sara S.(2000). *Asperger Syndrome* spaeow copyright 2000 the guliford press. (総説 アスペルガー症候群. 山崎晃資, 小川真弓監訳. 明石書店, 2008).

桑原 斉・加藤佳代子・佐々木司 (2014). DSM-5 における「自閉症スペクトラム」—何がどう変わったか—, *こころの科学*, 174, 22-28.

Liu XX, Kawamura Y, Shimada T, Otowa T, Koishi S, Sugiyama T, Nishida H, Hashimoto O, Nakagami R, Tochigi M, Umekage T, Kano Y, Miyagawa T, Kato N, Tokunaga K, Sasaki T. (2010). Association of the oxytocin receptor (oxtr) gene polymorphisms with autism spectrum

disorder (asd) in the Japanese population. *J. Hum Genet.* 55, 137-141,

林幸台, 王木榮(1997). 威廉斯创造性思考活动手册 I-M]. 台湾:心理出版社, 1997.1

李洪玉(2001). 思维策略. 天津:百花文艺出版社, 2001、132、-163

Lawson, J& Baron-Conhen, S& Wheelwright, S (2004). Empathising and systemizing in adults with and without Asperger syndrome. *J. Autism Dev. Disord.*, 34:301-310.

Liu Meng-Jung(2008). *Bulletin of Special Education*2008, 33(1), 73-92 Screening Adults for Asperger Syndrome and High-Functioning Autism by Using the Autism-Spectrum Quotient (AQ) (Mandarin Version)

Lerer E, Levi S, Salomon S, Darvasi A, Yirmiya N, Ebstein RP (2008). Association between the oxytocin receptor (oxtr) gene and autism: Relationship to vineland adaptive behavior scales and cognition. *Mol. Psychiatr.* 13, 980-988.

Minyoung Jung, Hiroataka Kosaka, Daisuke N. Saito, Makoto Ishitobi, Tomoyo Morita, Keisuke Inohara, Mizuki Asano, Sumiyoshi Arai, Toshio Munesue, Akemi Tomoda, Yuji Wada, Norihiro Sadato, Hidehiko Okazawa, Tetsuya Iidaka (2014). “Default mode network in young male adults with autism spectrum disorder: relationship with autism spectrum traits” (日本語タイトル:「安静状態の脳活動パターンが自閉症スペクトラム傾向に関与している」), 「*Molecular Autism*, DOI 番号:10.1186/2040-2392-5-35

Maslow, A. H. (1959). Creativity in self-actualizing people. In H. H. Anderson, *Creativity and its cultivation*. Harper and Row. 創造的人間 宗教 価値 至高経験, 佐藤三郎, 佐藤全弘監訳, 誠信書房, 1981.

Minshev, N. J., Goldstein, G (1993). Is autism an amnesic disorder? Evidence from the California Verbal Learning Test. *Neuropsychology*, 7:2009-216.

Mandell, D. S., Wiggins, L. D., Carpenter, L. A., Daniels, J., DiGuseppi, C., Durkin, M. S., & Shattuck, P. T. (2009). Racial/ethnic disparities in the identification of children with autism spectrum disorders. *American Journal of Public Health*, 99(3), 493-498.

末田 清子 (1995). 「面子」の概念の違いとそれによるコミュニケーション・スタイルの違い —中国人と日本人— *ヒューマン・コミュニケーション研究*, 23, 1-14.

村山 孚 (1995). 中国人のものさし日本人のものさし 草思社

末田 清子 (1998). 中国人学生と日本人学生の「面子」の概念及びコミュニケーション・ストラテジーに関する比較の一事例研究 社会心理学研究, 13, 103-111.

中村 治 (1994). 日本と中国、ここが違う 徳間書店

ニキ・リンコ (2005). NT 学のすすめ—的はずれな苦勞を増やさないために、そだちの科学、5:64-69.

ニキ・リンコ (2005). 『俺ルール!—自閉は急に止まれない』花風社。

恩田 彰 (1994). 「創造性教育の展開」, pp.110—114, 恒星社厚生閣

岡南 (2010). 天才と発達障害—映像思考のガウディと相貌失認のルイス・キャロル, 講談社.

恩田 彰 (1971). 創造性の研究 恒星社厚生閣

岡田 俊(2004).アスペルガー症候群における認知の特徴と神経心理学.精神科治療,19:1197-1203.

落合 純(2004). パーソナルコンピュータ利用に対するユーザーの態度と活用実態, 東北大学大学院.

Ozonoff, S., Griffith, E.M (2000). Neuropsychological function and the external validity of Asperger syndrome. In Klin, A., Volkmar, F., Sparrow, S.S.(eds):Asperger syndrome,pp.72-96, Guilford Press, New York,. 山崎晃資(監訳):アスペルガー症候群の神経心理学的機能と外的妥当性.アスペルガー症候群、pp.107-141,明石書店、2008.

杉山 登志郎 (1999). アスペルガー症候群と心の理論.精神科治療、14:47,-52.

Shaywitz, S (2003). Overcoming Dyslexia: A New and Complete Science-Based Program for Reading Problems at Any Level, Alfred A. Knopf 読み書き障害(ディスレクシア)のすべて—頭はいいのに、本が読めない. 藤田あきよ(訳)、PHP 研究所、2006.

園田 茂人 (2001). 中国人の心理と行動 日本放送出版協会

徐 方啓(2005). 中国の創造性教育 弓野憲一(編著), 世界の創造性教育: 2 章ナカニシヤ出版. p. 39-54.

杉山 登志郎(2008). 成人期のアスペルガー症候群。精神医、50:653-659.

柴 眞理子 (1993). 身体表現 ～からだ・感じて・生きる～ 東京書籍.

Sternberg, R. J (1997) : “Thinking styles.”, New York: Cambridge University Press, (スターンバーク R. J.(著), 松村暢隆, 比留間太白(訳): “思考スタイル能力を生かすもの”, 新曜社, (2000).

Triandis, H. C. (1995). Individualism and collectivism. Boulder: Westview Press, Inc. (神山貴弥・藤原武弘編(訳) (2002). 個人主義と集団主義 —2 つのレンズを通して読み解く文化— 北大路書房)

Torrance, E. P. (1994). Creativity: Just wanting to know. Pretoria, South Africa: Benedic Books.p .7-8.

土田幸男, 室橋春光 (2009). 自閉症スペクトラム指数とワーキングメモリ容量の関係: 定型発達の成人における自閉性障害傾向 認知心理学研究, 7, 67-73.

内山 登紀夫 (1987) 高機能自閉症概論. 心を開く 25, pp2-13.

Williams, D. (1992). Nobody, nowhere. Doubleday. 自閉症だったわたしへ. 川野万里子(訳) 新潮社. 1993)

Wu SP, Jia MX, Y, Liu j, Guo YQ, Shuang M, Gong XH, Zhang YB, Yang XL, Zhang D (2005). Positive association. of the oxytocin receptor gene (oxtr) with autism in the Chinese han population. Biol. Psychiatry 58, 74-77,.

Wing L (1981). “Asperger's syndrome: a clinical account”. Psychol Med 11 (1): 115-29
若子 理恵, 土橋 圭子(2005). 自閉症スペクトラムの医療・療育・教育, 金芳堂.

Wing, L, (1981). Asperger's syndrome: a clinical account. Psychological Medicine, 11, 115-129. (アスペルガー症候群: 臨床的知見、高木隆郎、M. ラター、E. ショプラー編. 自閉症と発達障害研究の進歩、4、pp102-120)

Williams, K. (1995). Understanding the Student with Asperger Syndrome Guidelines for Teachers. Focus on Autism and Other Developmental Disabilities, 10(2), 9-16. アスペルガー症候群の子どもの理解: 教師のための指針, 門 眞一郎・田中浩一郎・全 智奈(訳), 1995.

Wing (1991). 「自閉症とアスペルガー症候群」 Frith, U 著, 富田真紀(訳) 東京書籍 1996.

Wing, L (1996): The autistic spectrum. A guide for parents and professionals.

(自閉症スペクトル、親と専門家のためのガイドブック、久保紘章、佐々木正美、清水康夫監訳、東京書籍,1998)

Wing, L. (2000). Past and future of research on Asperger syndrome. IN. Klin, A., & Volkmer, F. R., & Sparrow, S. S (Eds.), Asperger syndrome (pp. 418-432).

山口 勇馬, 神園 幸郎(2009). 小学校における自閉症児への教育的支援について～原初的知覚を枠組みとした行動の理解～, 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要, No.1,19-28.

張 慧 (2011). 文系と理系の視点で異なる日中オフショア・ソフトウェア開発における人材育成法に関する研究, 北陸先端科学技術大学院大学.